



# 第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 イブニングセミナー6

日時

2022年

4月23日(土) 18:00~18:50

会場

第7会場

(かごしま県民交流センター 東棟3F 中研修室2)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

本セミナーはライブ配信も実施しております。

詳細は「第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会ホームページ(<https://jocd38.jp/>)」  
よりご確認ください。



## 爪白癬は治せる時代

—皮膚科医として完全治癒を目指す—

座長

野口 博光 先生 (のぐち皮ふ科 院長)

講演1

高齢爪白癬患者における治療意義

当科におけるホスラブコナゾールの治療成績からの考察  
～前期高齢者と後期高齢者における比較～

大久保 絢香 先生 (市立室蘭総合病院 皮膚科 科長)

講演2

爪白癬に対する早期介入の重要性

原田 和俊 先生 (東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授)

# 高齢爪白癬患者における治療意義 当科におけるホスラブコナゾールの治療成績からの考察 ～前期高齢者と後期高齢者における比較～

## 大久保 絢香 (市立室蘭総合病院 皮膚科 科長)

爪白癬は高齢化に伴い有病率が上昇する慢性かつ難治性の疾患である。爪白癬は繰り返す足白癬の原因になることに加え高齢者においては爪の肥厚に伴う下肢機能の低下から、歩行困難や転倒などのリスクが高くなる。歩行困難は日常生活活動 (Activities of daily living; ADL) の低下を招き、認知機能の低下とも結び付く可能性もあり高齢者における爪白癬の治療意義は大きい。現在国内では外用薬2種、内服薬3種が保険適用となっている。皮膚真菌症診療ガイドラインでは、完全治癒率を考慮し外用薬は推奨度B、内服薬はAとされた。ホスラブコナゾール (ネイリン) はその内服薬3種の1つであり、2018年に約20年ぶりに承認された経口抗真菌薬である。1日1回1カプセル12週間で服用が完了できて、現在併用注意薬はあるが併用禁忌薬はない。昨今、ポリファーマ

シーが問題とされ、特に高齢者で内服薬を増やすことに懸念がある場合でも、比較的活用されやすい薬と言えよう。今回、当院における趾爪白癬患者185名を65歳以上74歳以下の前期高齢者の群と75歳以上の後期高齢者の群に分け、ホスラブコナゾールの臨床効果と安全性について比較検討した。結果として両群ともに年齢による有意差はなく、比較的高い治療効果を示し、慎重に経過観察することで比較的 safely に使用できることが確認できた。これから超高齢化社会を迎えるわが国において、ホスラブコナゾールは年齢層を問わず早期より積極的に使用することで、高齢爪白癬患者のADLおよびQOL維持・改善につながることが期待される。高齢者に対する治療経験の報告にあわせ、当科で行っている高齢者への内服療法に際してのICのポイントについても述べたい。

# 爪白癬に対する早期介入の重要性

## 原田 和俊 (東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授)

爪白癬は皮膚科外来の5%を占めるcommon disease であるが、人口の10%が罹患すると推計される潜在患者が極めて多い表在性真菌感染症である。加齢に伴い罹患率が上昇するため、超高齢化社会を迎える日本では、今後患者数の増加が予想されている。

爪白癬は治療介入を行わず病期が進行すると、爪甲の変形が生ずる。これは爪甲の全層に白癬菌が増殖したTDO型となること、白癬菌が爪床に沿って侵入するため、爪甲剥離が生じ、爪甲鉤彎症が発症することが原因である。TDO型は内服抗真菌薬を投与しても治癒させることが難しく、爪甲鉤彎症では抗真菌薬によって白癬菌が消失しても、爪甲の変形が残存する。

一方、爪甲の変形は高齢者の転倒の原因となる可能性が報告されており、転倒による要介護者数の増加は大きな社会的な課題である。従って、爪甲変形は患者個人のボディイメージの低下以上に重要な問題である。

恒久的な爪甲変形を予防するためには、爪白癬の早期介入が肝要である。ホスラブコナゾールの臨床試験の結果やリアルワールドからの報告によって、早期に爪白癬の治療を開始した症例は完全治癒率が高いというエビデンスが示されている。

高齢者は様々な疾患に罹患しており、すでに数種類の薬剤を内服していることが多い。さらに肝機能、腎機能が低下しているため、皮膚科専門医でも内服抗真菌薬の投与を躊躇する症例が少なくないが、高齢者に対するホスラブコナゾールの安全性を示す報告も存在する。従って、安全性を重要視し、高齢者には外用抗真菌薬を選択するという戦略も間違いではないものの、強い治療希望がある爪白癬患者には、たとえ後期高齢者であっても、積極的に罹患面積の小さい早期から内服抗真菌薬を投与することを考慮すべきである。

